

平塚盲学校に 50万円を寄付

視覚障害者支援財団

視覚障害者を支援する一般財団法人「春めき財団」（南足柄市）が県まなびや基金を通じて、平塚市追分の県立平塚盲学校に50万円を寄付した。古屋富雄理事長が15日、同校を訪れ、目録を柴山洋子校長に贈呈した。柴山校長は「本当にありがたい。拡大読書器や点字タイプライターの購入などを検討したい」と喜んで



柴山校長に目録を贈呈する古屋理事長（左）（15日、平塚市追分の県立平塚盲学校で）

いる。

同財団は依頼者の半生を歌と映像で振り返る「セレモニードデオ」を制作し、その売上金から経費を除いた全額を視覚障害者施設に寄付する事業を行っており、この事業での寄付は今回が初めて。趣旨に賛同した小田原市の女性が夫のビデオ制作を依頼した。

ともに80歳代の夫婦は数年前まで米屋を営んでいたが、夫が脳梗塞で倒れて店をたたんだ。約5分間のビデオでは、ジュースや牛乳、灯油などを配達し、朝から晩まで一生懸命働いた夫の半世紀を、かつての店舗や近くの海岸などの映像とともに振り返り、古屋理事長が作詞・作曲した歌を、音楽仲間のギタリスト平野融さんが歌い上げている。

古屋理事長は「自分の半生を歌と映像に残すとともに、民間や個人が社会貢献できる仕組み。寄付文化の広がりにつながればうれしい」と話している。